

### 実施背景と目的

深刻化する障害福祉分野の人材不足、特に三田市内における居宅介護（ヘルパー）の担い手不足を重要課題と捉え実施。障害福祉サービス事業所に加え、現在は介護保険のみを扱う訪問介護事業所へも対象を拡大し、地域全体での支援力の底上げと、障害福祉への参入促進・関心喚起を目的とした。隔月での連絡会を通じ、情報共有のみならず、障害特性への理解促進や専門性の向上を図る実践的なプログラムを展開した。6月からの偶数月は管理者・サービス管理責任者の連絡会を事業所主体で開催し、情報交換と知識や実践していることを共有しあう場を重ね、障害福祉サービスの質の維持と、担い手不足という地域課題の解決に向けた基盤整備を推進した。

#### ○ヘルパー事業所連絡会の開催状況

開催日	内容	参加者数（事業所数）
5月14日（水）	① 今年度のヘルパー事業所連絡会について ② 「身体のしくみから学ぶ！明日から使える腰痛予防と実践ヘルスケア」講義 講師：ヘルスケアいろは 大西ありさ氏	16名（8事業所）
6月11日（水）	管理者・サービス管理責任者連絡会 入浴介助、通院介助について	10名（8事業所）
7月9日（水）	事例検討会 事例提供：中央ヘルパーステーション	10名（7事業所）
8月6日（水）	① 自立支援協議会について 障害福祉課より ② 管理者・サービス管理責任者連絡会 移動支援、警報時の対応について	13名（9事業所）
9月10日（水）	事例検討会 事例提供：ウェルネットさんだ	8名（6事業所）
10月8日（水）	管理者・サービス管理責任者連絡会 BCP、ノーリフティングケア研修企画について	7名（5事業所）
11月12日（水）	事例検討会 事例提供：ぼしぶる	7名（6事業所）
12月10日（水）	管理者・サービス管理責任者連絡会 重要事項説明書について	5名（5事業所）

#### 【成果】

- ・昨年度の課題として意見が上がっていた、事例検討会、ヘルパー自身の介護技術講座、ストレッチ等の研修を行うことが出来た。事例検討会では利用者のケースで悩んでいることや、対応に関するアイデアを各事業所で出し合うことで支援の幅が広がり、事業所間の情報共有および顔の見える関係づくりが進み、横の連携の強化につながった。

- ・管理者、サービス管理責任者連絡会では、制度動向や運営上の課題を共有する機会を確保でき、組織運営の視点を整理する場となった。具体的な支援方法やリスク対応について実践的な学びが深まり、支援の質の向上に寄与した。
- ・今年度のヘルパー事業所連絡会は、事業所の垣根を越えたネットワークを構築し、専門職としての資質向上を支援した。地域内の多様な事業所が障害福祉を「自分事」として捉える土壌を育み、サービス提供体制の確保と不足解消に向けた一助となった。

#### 【課題】

- ・今年度の連絡会においても、人材不足および従事者の高齢化が進行し、安定的なサービス提供体制の確保が課題となっている。また、障害福祉制度に関する理解のばらつきが医療機関を含む関係機関との連携に影響を及ぼしている。加えて、記録整備に係る事務負担が増大しているほか、災害時対応についても具体的な体制整備の強化が求められる状況である。地域の課題解決のために、事業所間での継続した連絡会の開催は継続し、令和8年度より各事業所主体の運営へ移行予定である。生活支援センターは事務局として支援を継続する。

<開催場所>三田市総合福祉保健センター

延べ人数 : 76名

参加事業所 : 54事業所

#### 【居宅介護支援事業所】

ねくすと、WELnetさんだ、三田市社会福祉協議会 中央ホームヘルパーステーション、ぽしぶる、ニチイケアセンター三田、ニチイケアセンターウッディタウン、神鉄ケアサービスセンター三田

#### 【訪問介護事業所】

オアシス三田ヘルパーステーション、訪問介護ステーション想、訪問介護センターひなたぼっこ

#### 【その他】

三田市障害福祉課、三田市障害者基幹相談支援センター、三田市障害者生活支援センター